



平成30年11月13日

各位

会社名 株式会社東理ホールディングス
(コード番号 5856 東証第2部)
代表者名 代表取締役社長 福村 康廣
問合せ先 常務取締役 田中 斉
(TEL. 03-6458-6913)

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向を踏まえ、平成30年5月15日に開示いたしました、平成31年3月期の通期連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成31年3月期通期連結業績予想数値の修正（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	15,789	435	455	380	4.37
今回発表予想 (B)	15,540	246	266	△338	△3.89
増減額 (B-A)	△248	△189	△189	△718	—
増減率 (%)	△1.6	△43.5	△41.6	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成30年3月期)	15,730	266	251	170	1.96

2. 修正の理由

売上高につきましては、当第2四半期連結累計期間において、酒類製造事業では、天候不順と夏場の猛暑により焼酎の需要が大きく減退したこと及び教育関連事業では、テスト関連事業部門の受講生の減少によって売上高が伸び悩んだことなどが影響しました。

第3四半期以降においても引き続き需要の減退から売上の伸び悩みが予想され、当初の予想売上高よりも乖離が大きくなると見込んでいるため、通期においては248百万円予想を下回る見通しとなりました。

また、営業利益及び経常利益につきましては、当第2四半期連結累計期間において、酒類製造事業では、売上高の減収効果に加えて、高付加価値商品の構成率の低下の影響などにより、また、教育関連事業では、商品の製作コストが増加することなどによって、当社グループの売上総利益率の悪化が営業利益、経常利益の減少要因となりました。

第3四半期以降、売上高の減収の影響を受ける事は避けられないものの、酒類製造事業及び教育関連事業において、商品構成を見直し、高付加価値商品の構成比率を高めて、営業利益、経常利益への影響を最小限に留める施策を講じることから、当第2四半期連結累計期間と同水準の減益になると見込んでおり、通期では前回発表予想から189百万円下回る見通しとなりました。

当期純利益につきましては、営業利益及び経常利益の予想の修正のほか、当第2四半期連結累計期間に計上した特別損失547百万円の影響で718百万円予想を下回る見通しとなりました。

以上